

PRINCIPALITY OF
ZEON



MS-06J ZAKU II

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-06J ZAKU Ver.2.0



ジオン公国軍地上用
量産型モビルスーツ
MS-06J ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06J ZAKU II



ジオン公国軍地上用
量産型モビルスーツ
MS-06J ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル



ジオン公国MS開発史

MOBILE SUIT

MOBILE SUITとは、ジオン公国が開発した巨大な人型機動兵器である。MSは、地球連邦軍との圧倒的な戦力差を覆し、連邦政府を降伏寸前まで追い込んだ。

U.C.(宇宙世紀)0071年。ジオン公国軍は、ミノフスキー粒子が散布された環境における新兵器の開発に着手した。ミノフスキー粒子が散布された空間では、特定範囲の波長域の電磁波が著しく減衰するばかりか、その濃度によっては、コンピューターの集積回路などに機能障害を引き起こす。そのため、レーダーによる長距離探査や索敵、通信などが阻害され、無線による遠隔操作や高度なナビゲーションシステムを使用した「近代的な電子戦」は、コスト、サイズ、重量などの面で運用できなくなってしまう。このような環境下において最も有効な兵器として開発されたのがMS(モビルスーツ)である。MSが現在に近い形を獲得したのは、研究の開始から2年後で、「モビルスーツ」と名付けられたのもこの年であった。まず、外部制御、外部動力による稼働試験機MS-01に始まり、制御機器の内装、動力装置の内蔵といった形で徐々に改良を積み重ね、そのノウハウを蓄積していった。かくして、ミノフスキー超小型反応炉搭載の稼働試験機であるMS-04が完成し、ようやく実戦投入の目的が立った。それからさらに改良を重ねられ、0074年2月、遂にMS-05が完成し、「ザク」と命名された。この機体は、それまで機体外に設けられていた動力/制御関連の機器を全て内装としており、同年5月には実戦仕様で量産機がロールアウトするに至った。

モビルスーツ “ザク”

U.C.0074年7月。MSとの連携および地球進攻作戦への投入を前提とした軽巡洋艦ムサイの一番艦が就航した。これは、公国軍の兵器体系がMSの運用を前提とするものに転換されたことを示している。

MS-05は十分に優秀な機体ではあったが、その量産は約800機を超えた時点で終了し、更なる高性能機であるMS-06 ザクIIが主力機として量産されることとなった。世に言う“ザク”とはこの機体を指すことは言うまでもない。この時点でMS-05は「ザクI」、または「旧ザク」と呼ばれるようになる。

U.C.0078年12月。ジオン公国軍が生産していた主力MSは、MS-06F型に移行しており、グラナダを含む各地の生産施設の実に80%がこの機体を生産していた。翌0079年1月の開戦時には、06A、06Cと共に実戦に投入され絶大な戦果を挙げている。公国は短期決戦を目標んでいたが、ルウム戦役に至るまでの損耗や地球進攻作戦が戦略上の選択肢として現実味を帯びてくる中で、公国軍は局地戦用MSの開発とともに、MS-06の重力下での運用を検討した。しかし、ジオン公国はコロニー国家であったため、遠心力による擬似的な1G環境しか存在しない。コロニーは地球環境を想定した演習や実験を行うには不適当であった。このため、月面のグラナダの試験場などが利用されることもあったが、月の重力は地球の6分の1であり、実働データとして満足できるものではなかった。無論、これらのデータとシミュレーションに基づいてMSの稼働を想定することはできたが、それはあくまで想定に過ぎず、得られるデータは予想値でしかなかったのである。この段階で純粋に地上用に局地化したMSを開発することは技術的にも難しいという結論から、開発スタッフはF型の汎用性を利用し、予想値に基づいて仕様変更を行うこととした。このようにして、史上初の重力下仕様MSとして誕生したのがMS-06J型、いわゆる地上用ザクIIである。



MS-06J ザクII

ザクの優秀さは、その汎用性の高さにある。それは、地球降下作戦以降の適応と拡散によっても証明されている。

公国軍のMSは、MS-05の時点で重力下での運用も可能な設計となっている。後継機であるF型および強化型のS型も、基本的にそのまま重力下での運用が可能であった。J型はこの点を押し進め、重力下仕様機として特化した機体である。F型から空間戦闘に必要なパーツを取り除き、大気圏内での使用を前提として、推進剤や冷却剤の削減などとともに、空冷式熱核反応炉への転換、関節部の強化、各部の軽量化など、重力下での長時間の運用に耐え得るよう改造を施した。また、F型の生産ラインをほぼそのまま利用できたのみならず、現地改修という形でF型からJ型への仕様変更も容易であった。例えば、最も標準的なユニットである頭部は、基本的にF型と同じモジュールが使用されており、純正のJ型との違いは、各部のシーリングやハッチのロック機構の変更程度である。無論、F型のもをそのまま使用することも可能であったが、純正のJ型のセンサー類は、受光端末や計測系のソフトウェアが「大気層」の存在に対応したものに刷新されている。四肢モジュールにも基本的にF型のパーツを強化した上で流用しているが、塵埃などの侵入防止のためのコーティングや、重力下環境に対応したソフトウェアが新たに書き込まれている。

J型が本格的に生産されたのは、2月の地球進攻作戦の実施以降であったとされている。1月31日の南極条約締結によって核兵器の使用が禁じられたこともあって、それらの機体は耐核装備を取り除いた形で生産となり、機体重量の軽減に一層貢献している。装甲も多重空間装甲から複合装甲へ変更され、この処置はF型でも実施された。

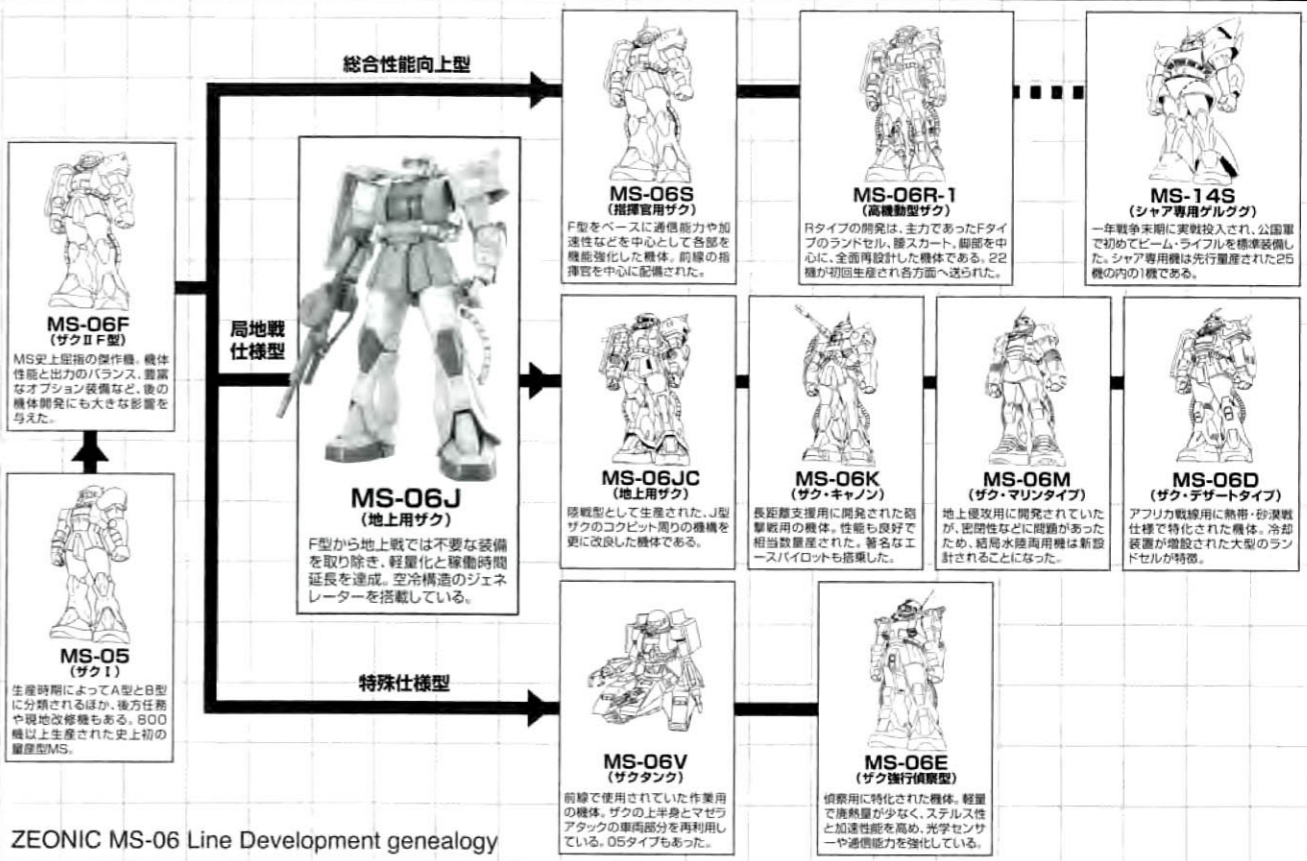
翻って見れば、J型の完成によって、公国軍の地球進攻は現実のものとなったと言っても過言ではない。爆撃と同時に降下、制圧を行うなど、MSはあらゆる局面で威力を発揮した。既存の兵器体系は過去の遺物となってしまったのである。ミノフスキー粒子散布による電磁波妨害効果は地上においても有効であり、なによりもその巨体は、物理的な側面以上に、地上に住む人々を蹂躪し尽くしたのである。ザクの汎用性の高さは言うまでもないが、MSが登場するまで、攻撃、迎撃、防衛、白兵などの戦術は無論のこと、さらには付設、散布、索敵、運搬など、「輸送」以外のほとんどの任務に運用可能な兵器など存在しなかったのである。MSは文字通り、時代を変えたのである。

3月1日に始まる第一次降下作戦においては、F型がそのまま投入され、現地でJ型に改修された。前後する時期、いわゆる純正のJ型の生産はグラナダで行われており、第二次降下作戦以降臨時投入され、第四次降下作戦において主力となったとされている。J型は制圧後のキャリフォルニア・ベースでも生産されたが、同時期に局地戦用MSの開発が本格化したこともあってか、機体数は決して多くなく、そのほとんどは単独か、少数編成の部隊においてのみ前線に投入されたと言われている。



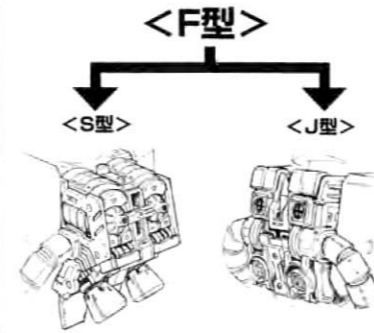
MS開発系譜 -ザク その適応と拡散-

一年戦争において、ザクは実に多様な環境に適応してみせた。そのためのアプローチは多岐にわたるが、おおむね三種に分類できる。任務や用途に適応した「特殊仕様」、トータルなスペックアップを図る「総合性能向上」、投入環境を限定した「局地戦仕様」である。これらの改装・改造機は、実際にそれなりの成果を上げている。それゆえ、公国軍技術者の間には、ある種の「ザク神話」が醸成されていった。そのことが逆に、ある時期以降のMSの進化を阻害してしまった側面は否定できない。公国軍におけるMS開発は、傑作機である「ザク」を超える(あるいは「捨てる’)ことによって新たな段階に進むことができたのである。



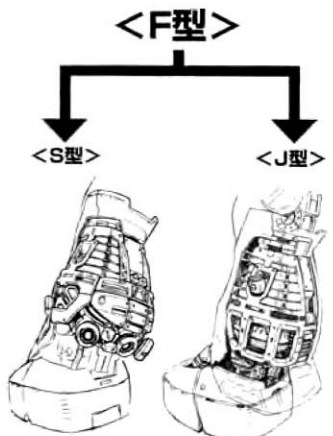
脚部スラスタ

生産時期の関係もあって、F型とJ型の脚部構造は基本的にほぼ同じである。ただし、F型には空間戦闘に不可欠なAMBAC(Active Mass Ballance Auto Control-能動的質量移動による姿勢制御)システムが搭載されているが、J型では基本的にオミットされている。AMBACシステムは、宇宙空間におけるMSの姿勢制御を司る機構であり、機体の挙動を検出する加速度計やバランサー、ポジショニングセンサーなどから構成されている。宇宙空間で運用されるMSは、それらと推進装置が密接にリンクすることで、既存の航宙兵器を凌ぐ機動性を獲得している。しかし、サブスラスタを含むそれらは地上においてはデッドウェイトでしかない。F型でそれらのパーツに使用されていた空間には、地上用に開発された対地センサーや冷却システム、ウェポンラッチなどが増設されている場合が多い。時期によって、サブスラスタなどがハウジングされたままの機体もあり、それらの有効性が、後のホバー走行のヒントとなったとする説もある。ちなみに、F型は地上でも運用可能だが、J型は宇宙では運用できない。なぜなら、AMBACに不可欠なパーツのほとんどがオミットされているためである。万一、J型がその仕様のまま宇宙空間へ進出した場合、基礎的な姿勢制御すら不可能となる。その状態は、俗に「溺れる」と呼ばれている。



背部スラスタ&メインジェネレーター

F型とJ型の最も大きな違いは、メインジェネレーターの冷却方式である。普通、MSは冷媒やプロペラントの燃焼、最終装甲の輻射など、複数の手段を用いて機体の潜熱を排出しているが、J型は空冷方式を積極的に採用している。ジェネレーターの基礎スペックなどはF型が搭載するものとほとんど同じだが、J型はインテークの内部構造やフィルターなどが専用のものに換装されており、大気との対流や循環を有効に利用している。これは、稼働に際してプロペラントを消費する必要がほとんどなく、移動にはもっぱら「歩行」が用いられるだろうことが想定されていたためである。実際、F型やS型と比べ、J型の地上での稼働時間は格段に延長されている。また、バーニア・スラスタは、緊急時や最大戦闘機動時以外に稼働させる必要性がほとんど認められなかったため、バーニアの口径なども、F型と比較して小規模なものとなっている。ただしこれは、大気圧が存在することによる反作用も勘案した上で設定されたものであり、事実、当初の運用においては必要十分なスペックだったのである。「移動速度」や「行動半径の拡大」が求められるのは、兵站の延伸や対MS戦闘が現実問題として浮上して後のことである。



△ 注意

必ずお読みください

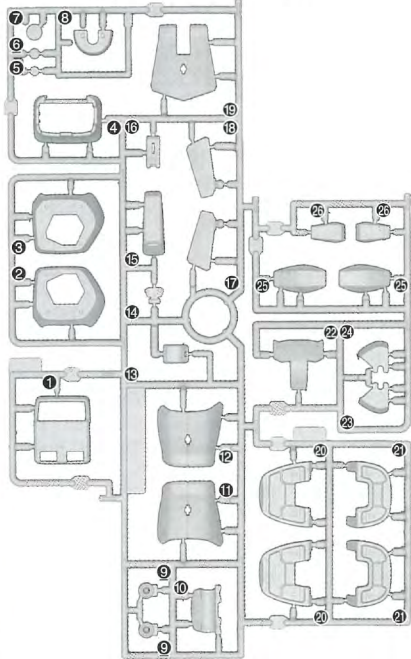
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- 誤飲の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

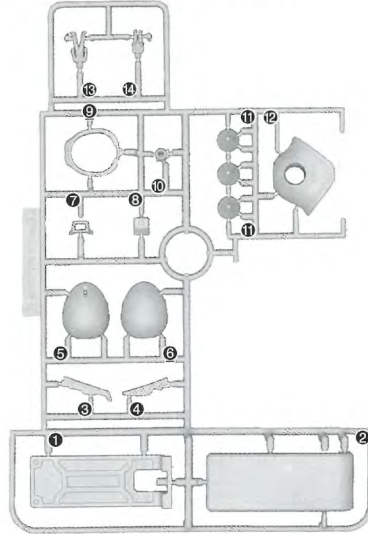
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

パーツリスト

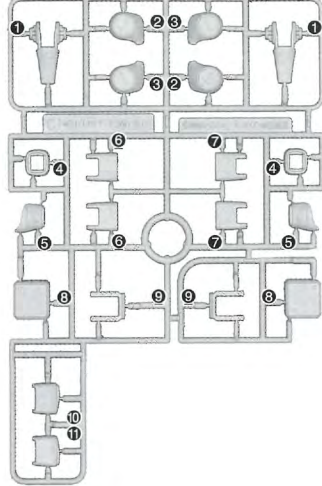
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



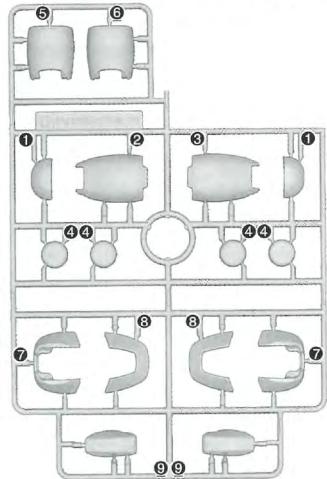
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



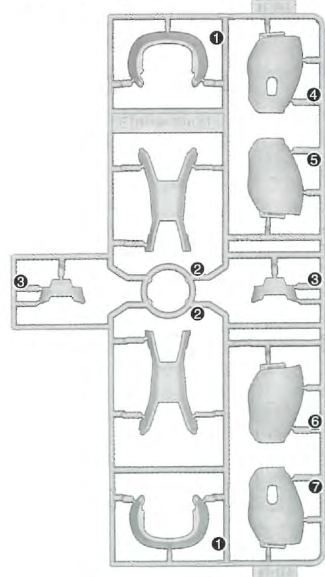
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



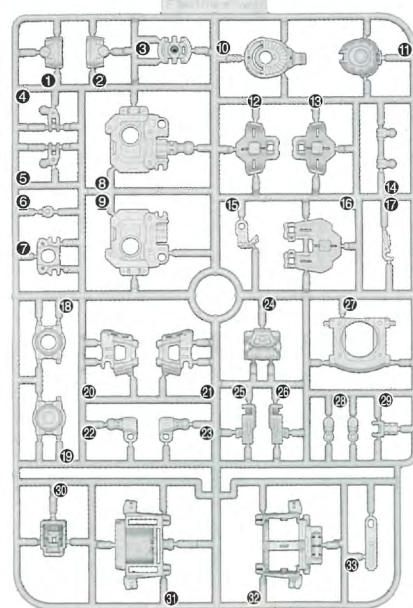
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



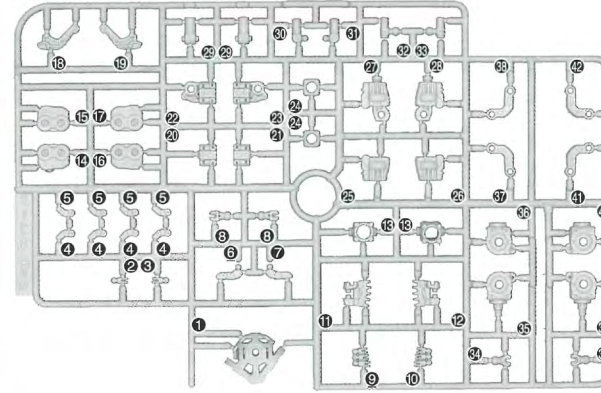
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



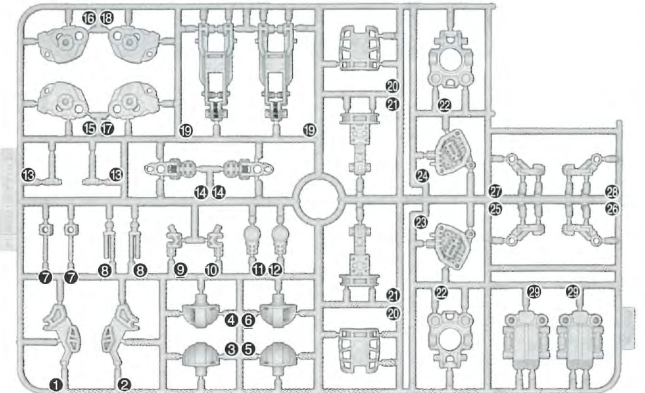
Fパーツ (ABS樹脂: ABS)



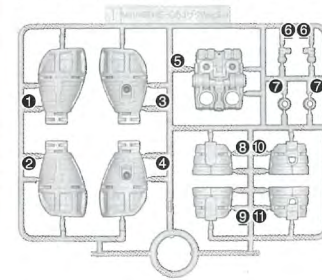
Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



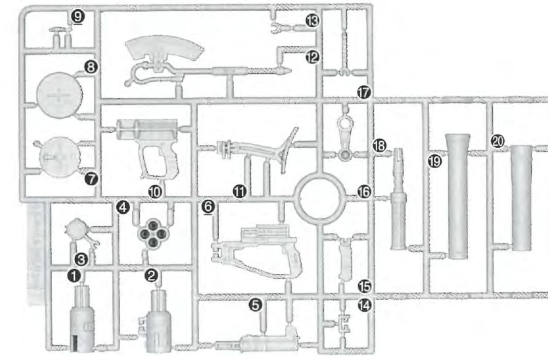
Hパーツ (ABS樹脂: ABS)



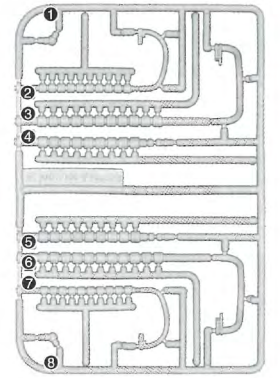
Iパーツ (スチロール樹脂: PS)



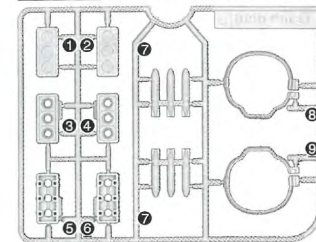
Jパーツ (スチロール樹脂: PS)



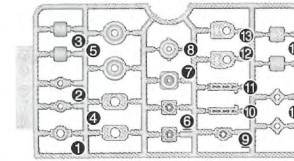
Kパーツ (スチロール樹脂: PS)
(ポリエチレン: PE)



Lパーツ (スチロール樹脂: PS)



〈PC-200〉
(ポリエチレン: PE)

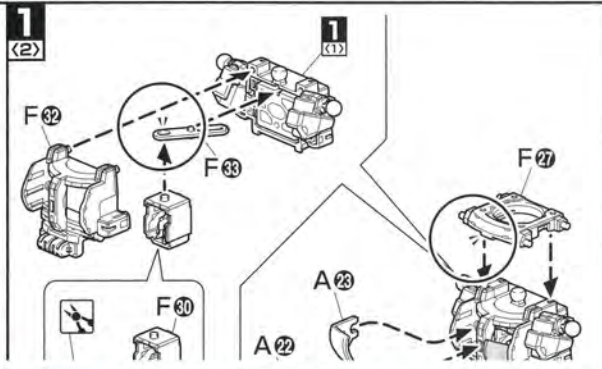


- マーキングシール……………1枚
- ガンダムデカール……………1枚
- パイプスプリング……………2本

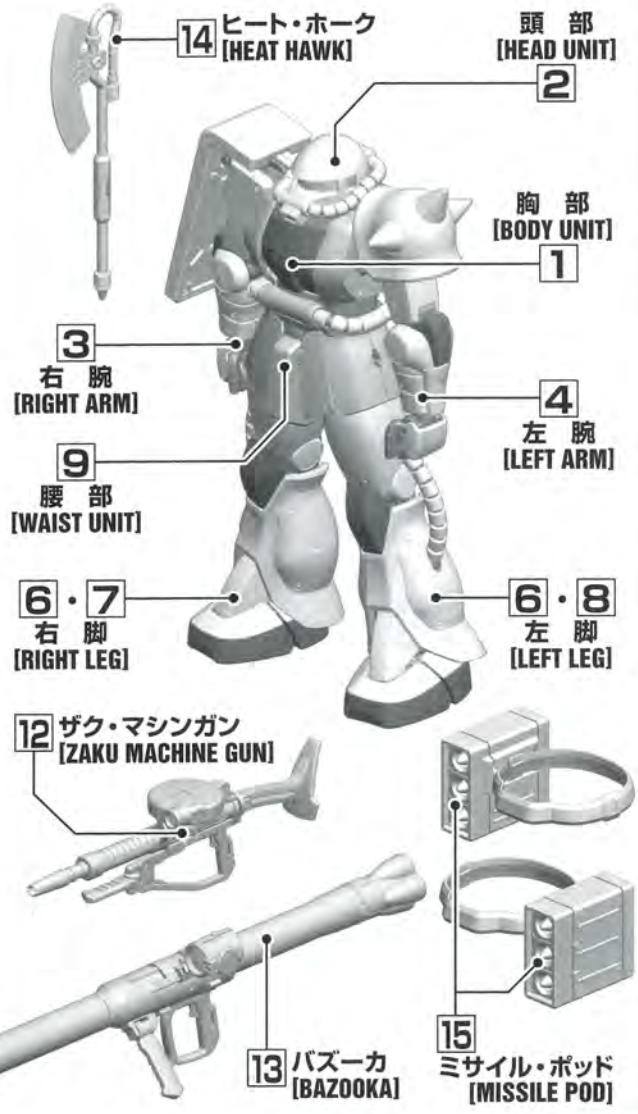
組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

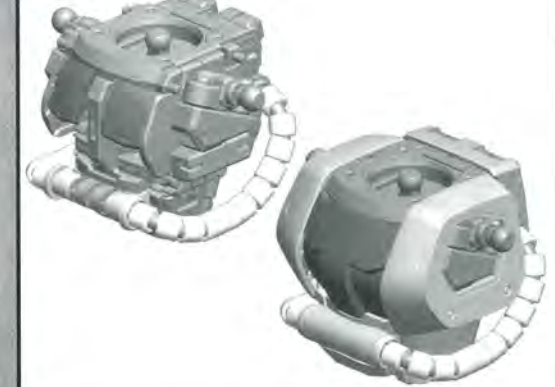
※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



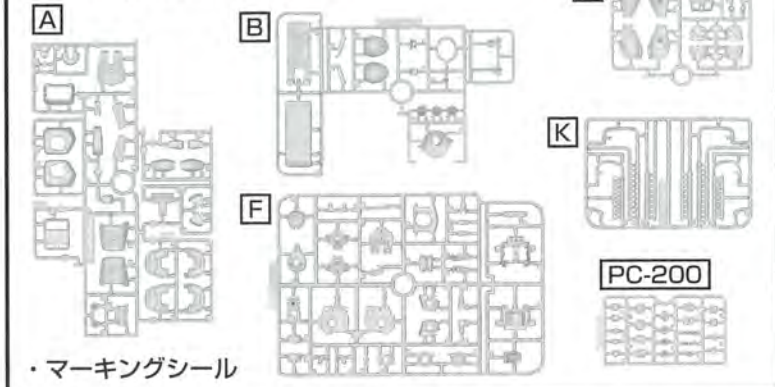
説明書をよく読んで完成させましょう



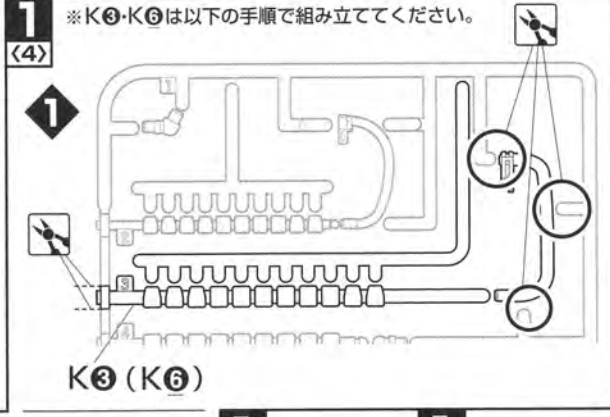
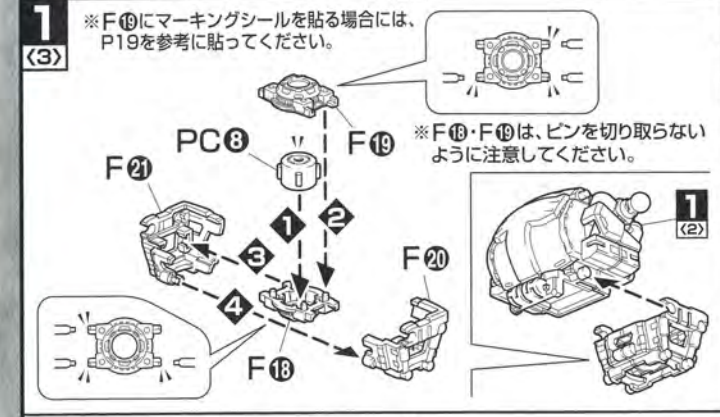
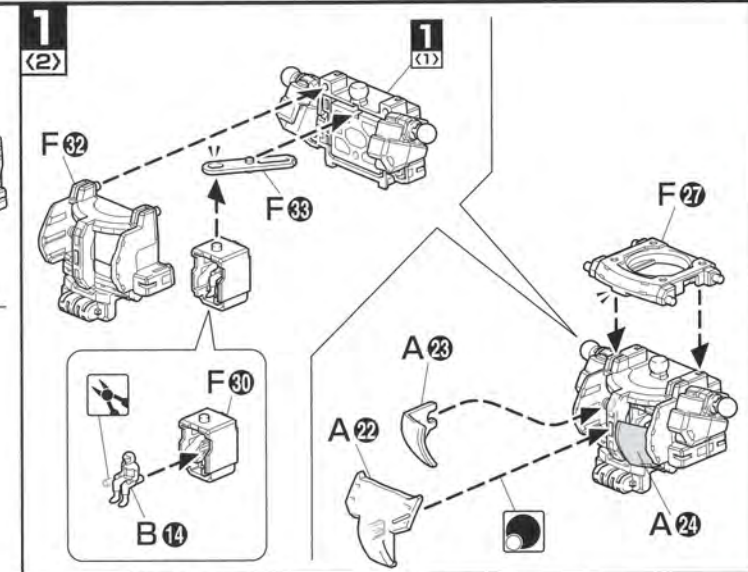
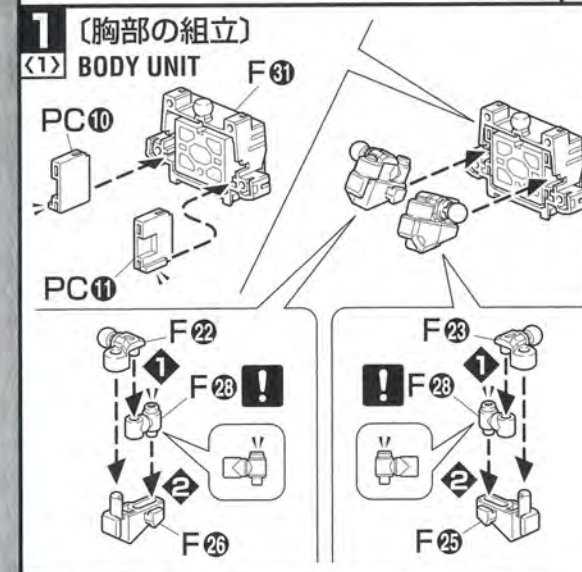
1 BODY UNIT



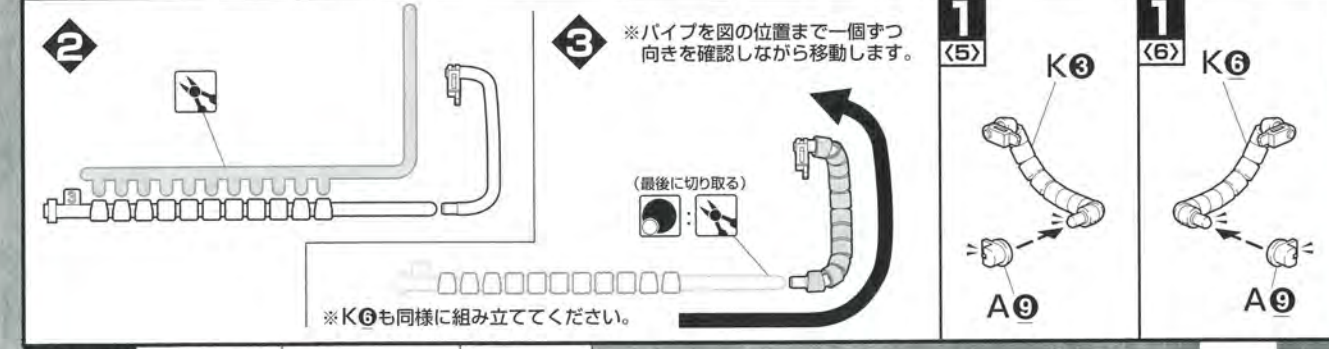
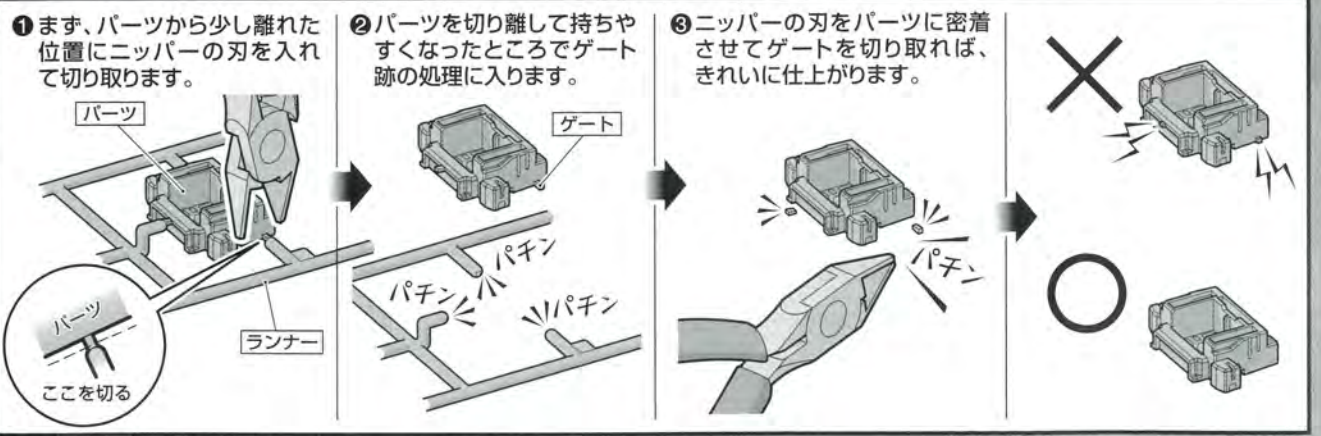
・組立1で使用するパーツ



ガンダムデカールの貼りかた



パーツの切り取りかた



1 (7)

1 (8)

PC9
I6
I7
x2

1 (9)

1 (10)

A2
A1
A3



・組立2で使用するパーツ

A B K F

PC-200

・マーキングシール

2 (頭部の組立)

(1) HEAD UNIT

F2
F3
PC1
F1
F10

※F6は、ピンを切り取らないように注意してください。

A6
F6

2 (3)

※K2-K7は以下の手順で組み立ててください。

1

2

3

K2 (K7)

※パイプを図の位置まで向きを確認しながら一個ずつ移動します。

(最後に切り取る)

※K7も同様に組み立ててください。

2 (2)

F11
A8
B9
B10

2 (4)

※左右に注意して組み立ててください。

K2
K7
B6
B7
B8
B9

2 (5)

B4
B5



・組立3・4で使用するパーツ

A B C G

PC-200

3 (右腕の組立)

(1) RIGHT ARM

PC15
G13
G34
G40
G39

3 (2)

G21
G16
PC14
G23
G17
G18
G26
G28

3 (3)

C8
C1
C5

3 (4)

C7
C6
C2
C3
PC6
C4

3 (5)

G12
G8
G6
G10
G5

3 (6)

PC2
G42
G41
B2
PC3
B1

MS Tracks in U.C.0079



U.C.0079年3月11日。公国軍は第二次降下作戦を展開した。ほとんどMSのみが降下した第一次降下作戦とは異なり、部隊の規模としては最大のものであった。第二、第三地上機動師団、航空部隊と海洋部隊の一部、並びに地球攻撃軍司令部などがこの作戦で降下している。降下ポイントは北アメリカの東西両沿岸で、作戦目標は軍事及び工業施設の占拠と食料の確保であった。3月13日までは、宇宙港をも備えた広大な複合軍事施設であるカリフォルニア・ベースが、ほぼ無傷に近い形で制圧された。以降この施設は、地球侵攻における最大の規模の橋頭堡として機能することとなる。当該地域の連邦軍の大部分は、プリティッシュ作戦で被害に遭った地域の復旧作業のため出払っており、組織立った反撃はほとんど行われなかったとされている。降下ポイントとして軍事的空白を選んだ公国軍の作戦勝ちであったと言えるだろう。ただし、抵抗が全くなかったと言う訳ではなく、一部の都市や自治体において、州兵や自警団、警備会社などとの戦闘が発生し、特にニューヨーク市に地球方面軍司令部が設営される際など、大規模な市街戦に発展した事例も報告されている。

U.C.0079年初頭。宣戦布告から1ヶ月余りの宇宙での大規模な艦隊戦を経て、公国軍はプリティッシュ作戦=コローニ-落との混乱に乗じる降下作戦を数回にわたって展開した。地上において戦線は急速に拡大したものの、間もなく膠着状態に陥った。前線には数多くのMSが投入されたものの、地上用のJ型の生産数はそれほど多くはなく、ほとんどはF型のまま配備されるか、地上用のパーツを換装して運用されていた。U.C.0079年10月4日、ザビ家の末子で地球方面軍司令のガルマがガンダムを擁するWB（ホワイトベース）部隊との戦闘において戦死する。ガルマの仇討ちの特命を受けたランバ・ラル隊は、WB部隊を追撃すべく、中央アジアの砂漠地帯を移動していた。U.C.0079年11月3日。ソドンの町の近郊でWB部隊を補足したラル隊は、陸戦用の新鋭機グフと、脚部に三連ミサイルポッドを装備したJ型ザクでWBに襲いかかる。「ステッチ、俺が飛び出す。その間にタンクをやれ!!」「はっ、はい。ラル大尉」グフが跳躍した次の瞬間、ステッチの駆るザクの脚部のポッドからミサイルが発射され、ガンタンクのキャタピラを粉砕する!!



MS-06J ZAKU II MECHANISM

機体各部をモノコック構造とユニット化されたパーツで構成する事により、メンテナンス性及び、コストパフォーマンスの向上を実現した機体である。

▼ F型から発展したJ型のスラストユニットは、重力下仕様で改良が施されている。

▲ ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためにインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可備し交換時やシールドとの換装時には容易な脱着が可能である。

▲ 地上走破性を考慮に入れたシリンダー機構は接地性能の向上につながっている。

▲ アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるような設計されている。

▲ 動力ユニットは、コクピット下部に配置されている。

▼ モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により、汎用性とメンテナンス性に優れた機体となっている。

MODEL NUMBER : MS-06J
 Height : 17.5m
 Weight : 56.2t
 Full weight : 74.5t
 Generator output : 976kw
 Armor materials : super hard steel alloy

PAINTING [塗装]

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
 ※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

ザク Ver.2.0 指定色

- 腕、脚などの塗装色
ホワイト(50%) + イエローグリーン(25%) + ニューラルグレー(25%)
- 胴などの塗装色
ホワイト(50%) + グリーン(30%) + ブラック(20%) + ブラウン少量

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。
 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

- 胸部、つま先などの塗装色
ミッドナイトブルー(100%)
- ランドセルなどの塗装色
ミディアムブルー(75%) + ブラック(20%) + レッド(5%)
- ヒート・ホークのブレードの塗装色
イエロー(60%) + ホワイト(30%) + オレンジ(10%)
- 武器などの塗装色
ニューラルグレー(85%) + ブラック(15%)
- ヒート・ホークの塗装色
パープル(55%) + ホワイト(30%) + ニューラルグレー(15%)
- モノアイなどの塗装色
蛍光ピンク(100%)

パイロット

- パイロット本体の塗装色
ホワイト(55%) + イエローグリーン(35%) + ブラック(10%)
- ヘルメットなどの塗装色
ホワイト(90%) + イエローグリーン(5%) + ブラック(5%)
- バイザーの塗装色
スカイブルー(100%)
- ヘルメット顔部の塗装色
モンザレッド(100%)
- ランドセルの塗装色
ミディアムブルー(100%)



ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカ-/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



[before] [after]

Weapons MS-06J ZAKU II Armament

ZAKU Bazooka

ZAKU Machinegun

Heat Hawk

Missile Pod

▼ 陸戦用の3連装ミサイルポッドの装着が可能。

▼ ヒート・ホークはサイドアーマーにマウントが可能。

▶ ザクマシンガンはリアアーマーにマウントが可能。

▼ ザク・バズーカはリアアーマーのバズーカラックにマウントが可能。

3
(7)

4 (左腕の組立)
(1) LEFT ARM

4
(2)

4
(3)

4
(4)

4
(5)

4
(6)

4
(7)

4
(6)

4
(7)

5 (上半身の完成)
UPPER BODY

6 7 8 LEG UNIT

・組立6・7・8で使用するパーツ

・パイプスプリング(x2) ・マーキングシール

6 x2 (脚部の組立)
(1) LEG UNIT

6 x2
(2)

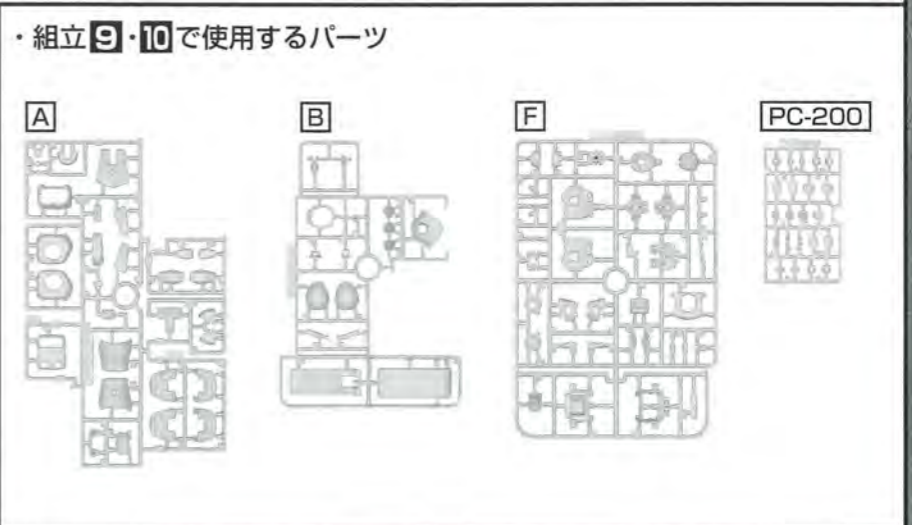
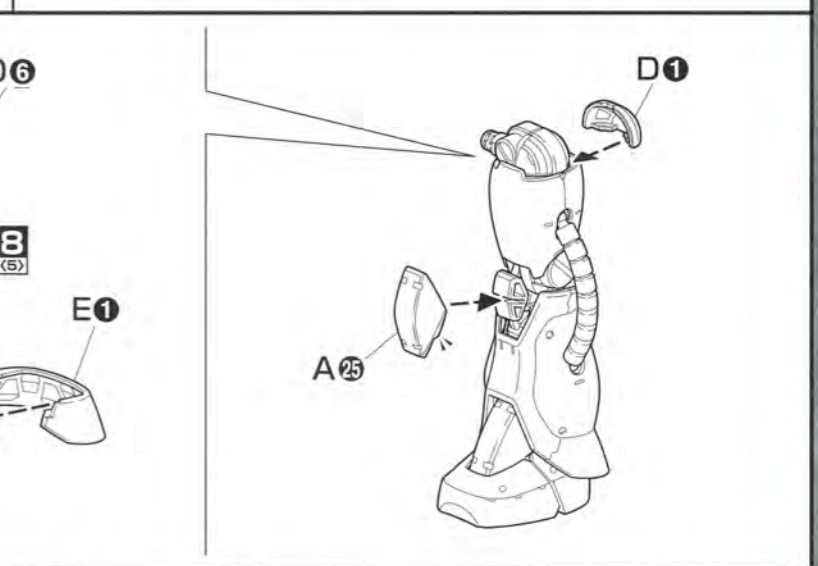
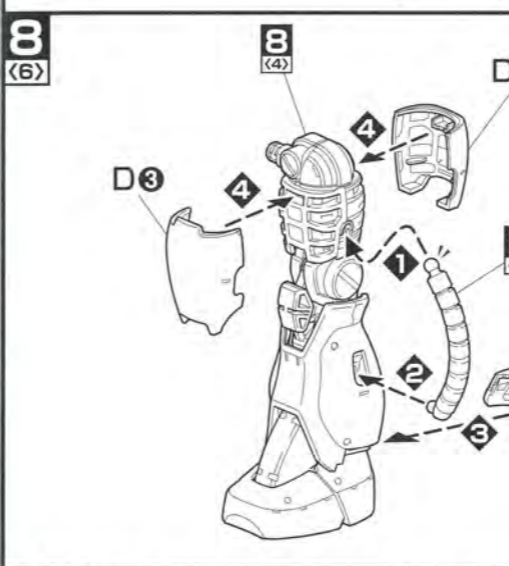
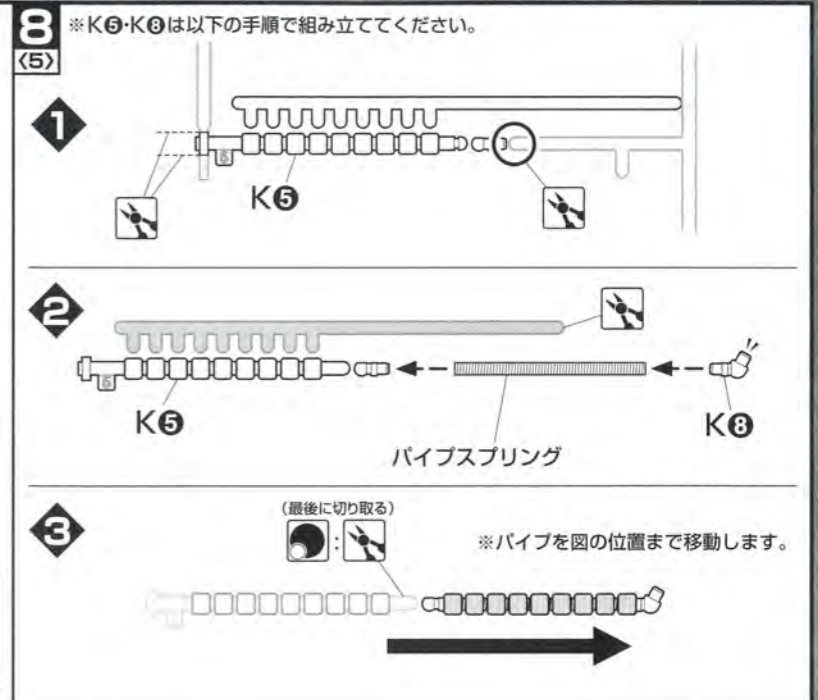
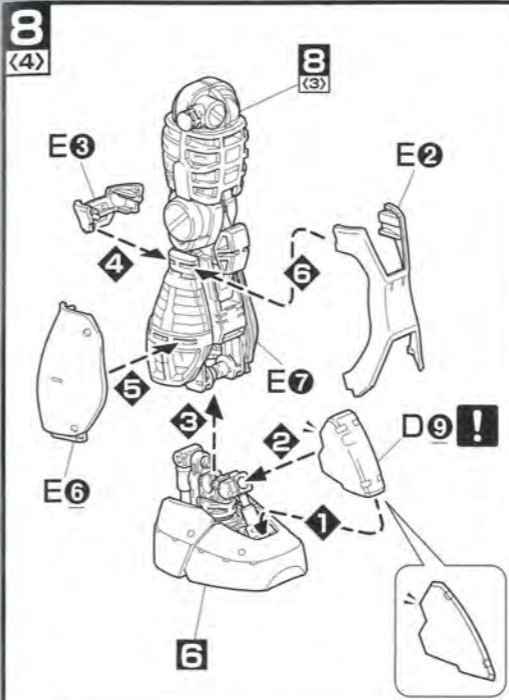
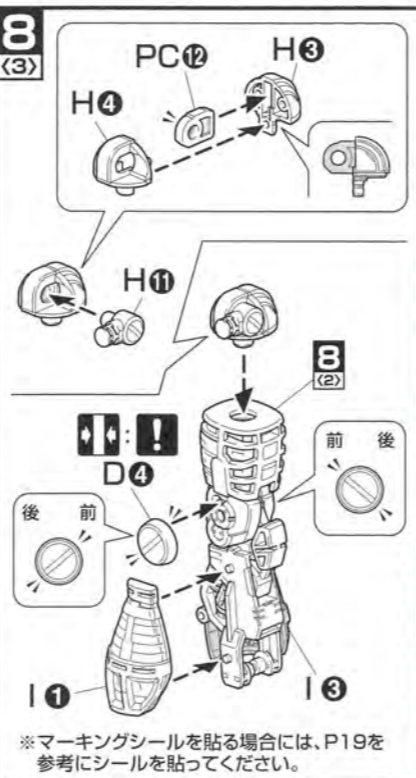
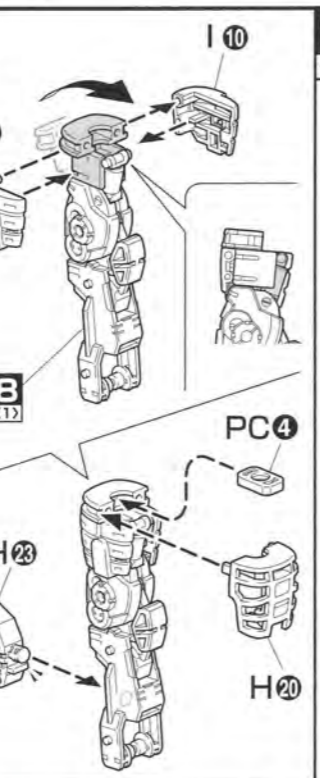
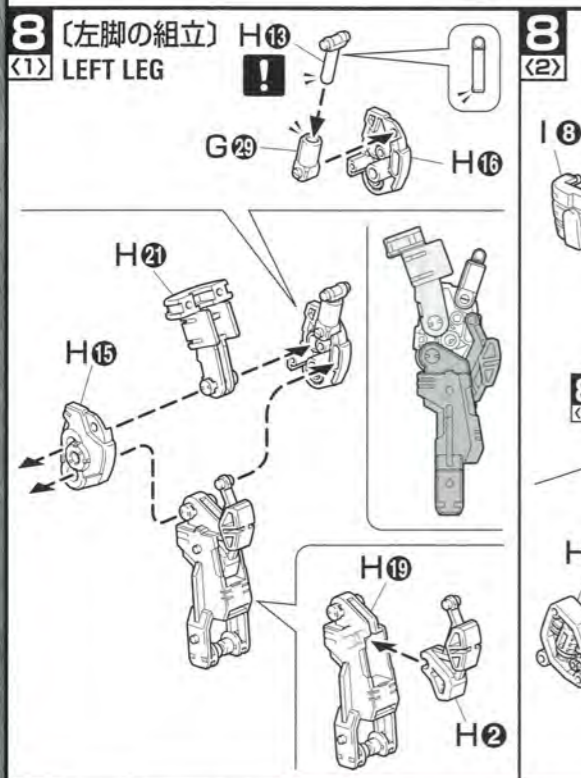
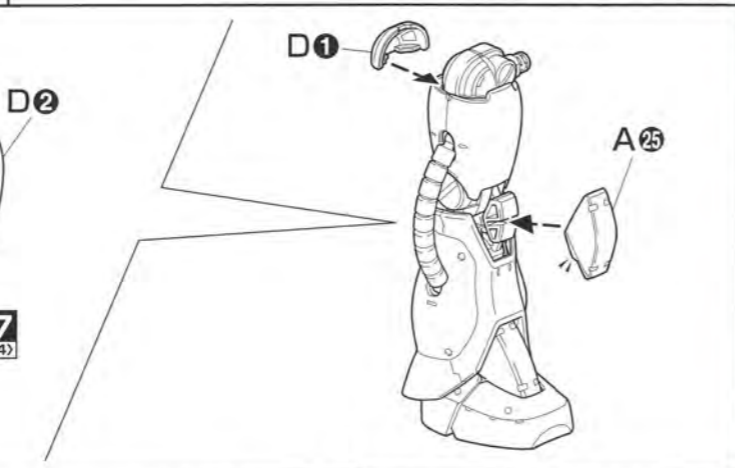
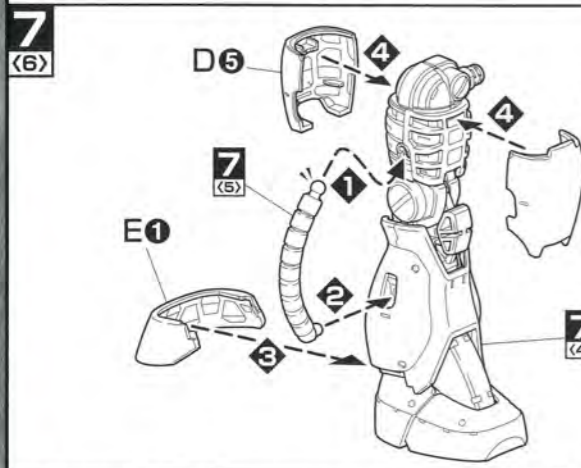
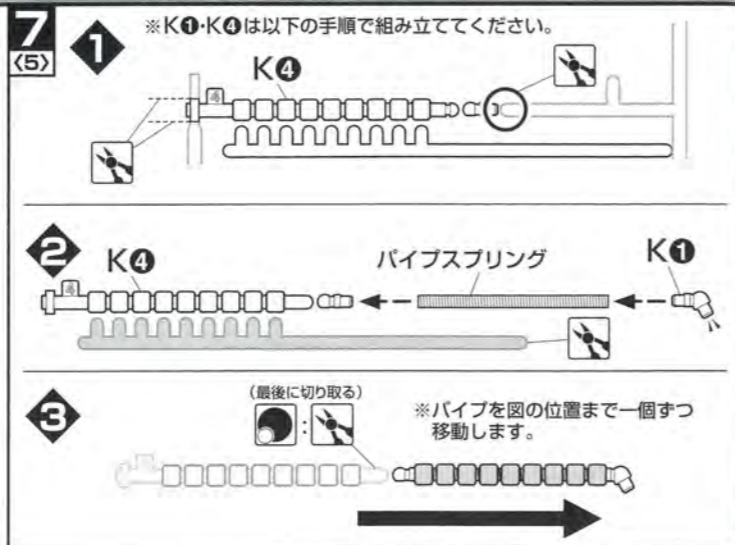
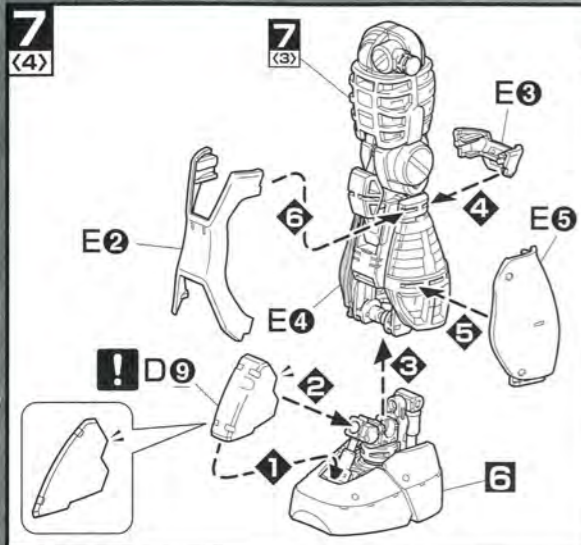
6 x2
(3)

7 (右脚の組立)
(1) RIGHT LEG

7
(2)

7
(3)

※マーキングシールを貼る場合には、P19を参考にシールを貼ってください。



9 (腰部の組立)
(1) WAIST UNIT

9 (2)

※奥までしっかりと、はめ込みます。

10 (下半身の組立)
LOWER BODY

9で作った腰部

7で作った右脚

8で作った左脚

11 (完成) FINAL ASSEMBLY

5

10

※B10は好みの場所に飾ってください。



・組立 12・13・14・15・16 で使用するパーツ

12 (ザク・マシンガンの組立)
(1) ZAKU MACHINE GUN

12 (2)

!

13 (バズーカの組立)
(1) BAZOOKA

13 (2)

!

14 (1)

12で作ったマシンガン

13で作ったバズーカ

(両腕に持たせられます)

J12

4

5

6

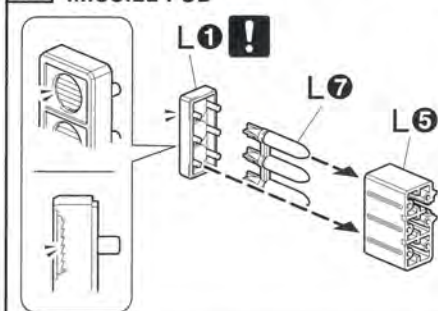
7

8

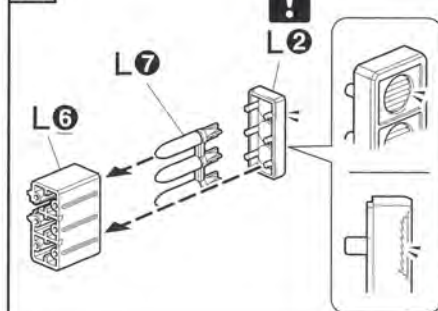
14
(2)



15 [ミサイル・ポッドの組立]
(1) MISSILE POD

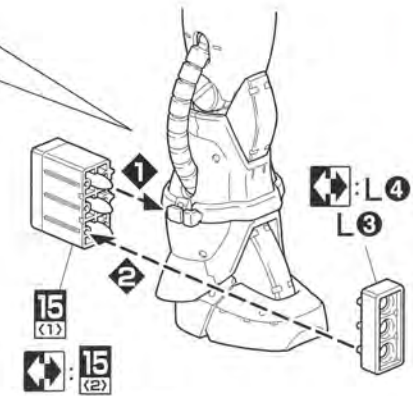


15
(2)

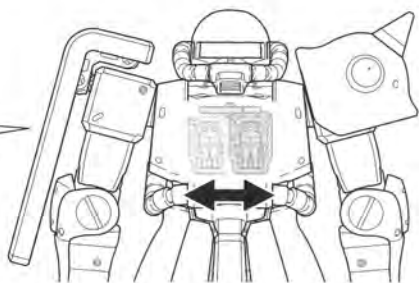
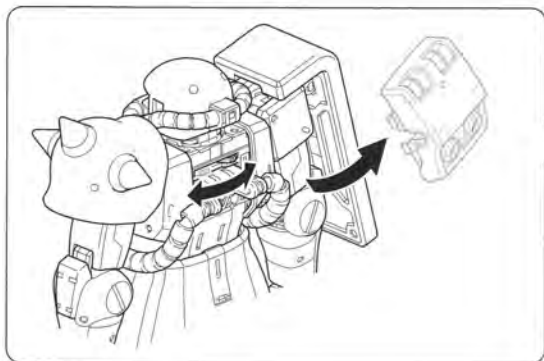


15
(3) (両脚に取り付けます)

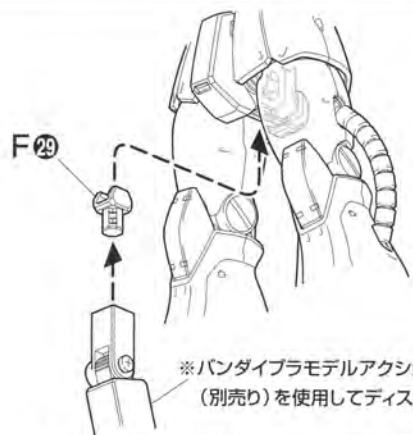
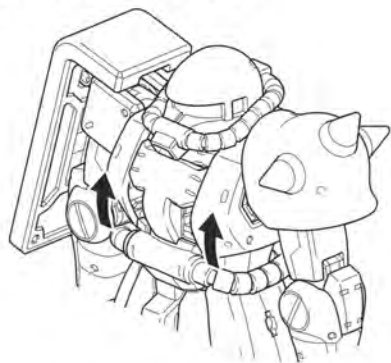
※パイプに注意して取り付けます。



16 <コクピットの可動>



<コクピットハッチの開け方>



※バンダイプラモデルアクションベース1 (別売り)を使用してディスプレイできます。

Seal

(シール) 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

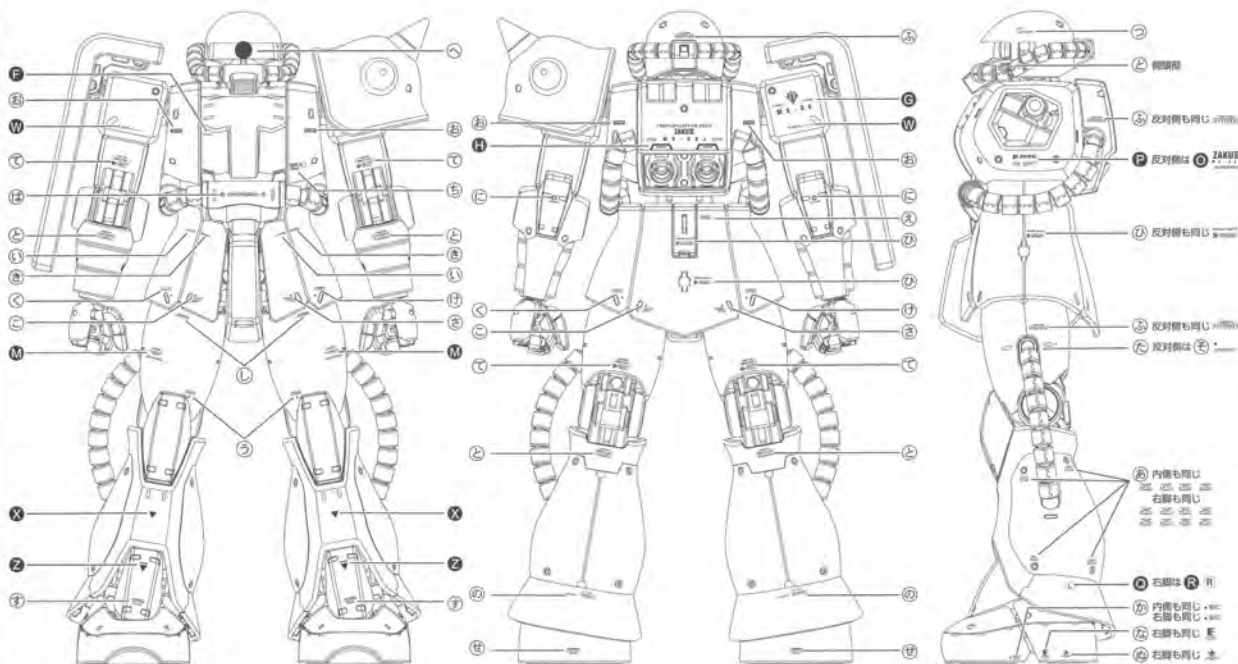
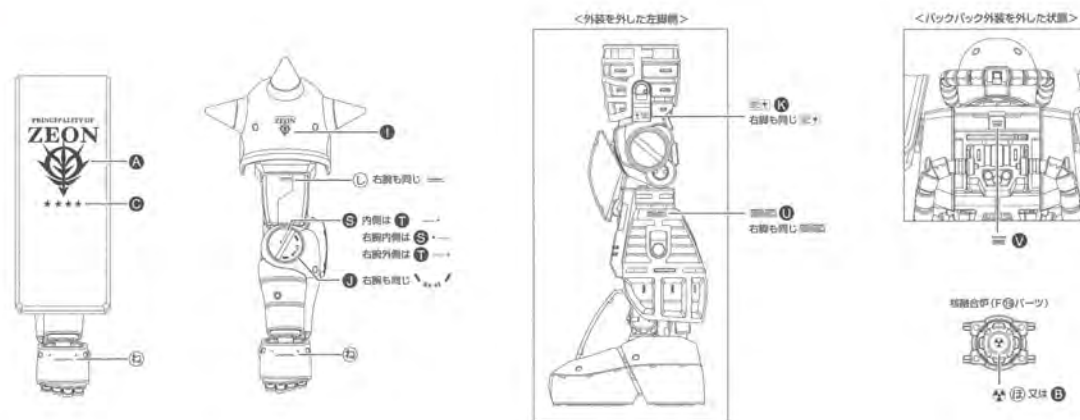
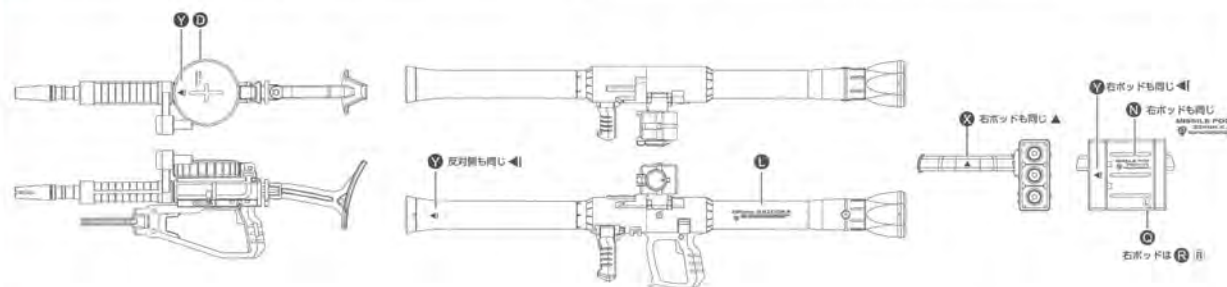
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。

【例】あ・・・マーキングシール A・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。